

2008/5/30
北海道国際航空株式会社

北海道での植樹の実施について

～ 北海道洞爺湖サミットを契機にエア・ドゥ就航地域で実施 ～

北海道国際航空株式会社(本社:札幌市、代表取締役社長:滝澤 進、以下:エア・ドゥ)は、北海道洞爺湖サミットが開催されるのを契機とし、また本年 12 月に就航 10 周年を迎えることを踏まえて、サミットテーマである地球環境の保全に寄与することを目的として、エア・ドゥが就航している北海道内就航 4 地域で植樹を実施いたします。

この事業は、北海道の提唱する「ほっかいどう企業の森林づくり」制度に参加して行うものです。

記

1. 事業内容

地球温暖化の原因である二酸化炭素の吸収や河川への土砂流出の防止など地球環境を守るため、植樹および植樹後約 5 年間の下草刈りを実施する。

2. 植樹の場所

エア・ドゥが就航する 4 空港周辺地域。(新千歳・旭川・函館・女満別空港周辺)
千歳空港周辺地域は、千歳市幌加地区に決定。
旭川・函館・女満別空港周辺地域は、6 月中に選定予定。

3. 植樹面積および植樹本数(4 空港周辺の合計)

植樹面積...約 10ha 植樹本数...約 20,000 本

4. 植樹時期

2008 年 9 月～10 月(予定)
植樹後約 5 年間苗木が成長するまで下草刈りを行う。

5. 森林の命名

地区ごとに弊社が命名を行う。

6. その他

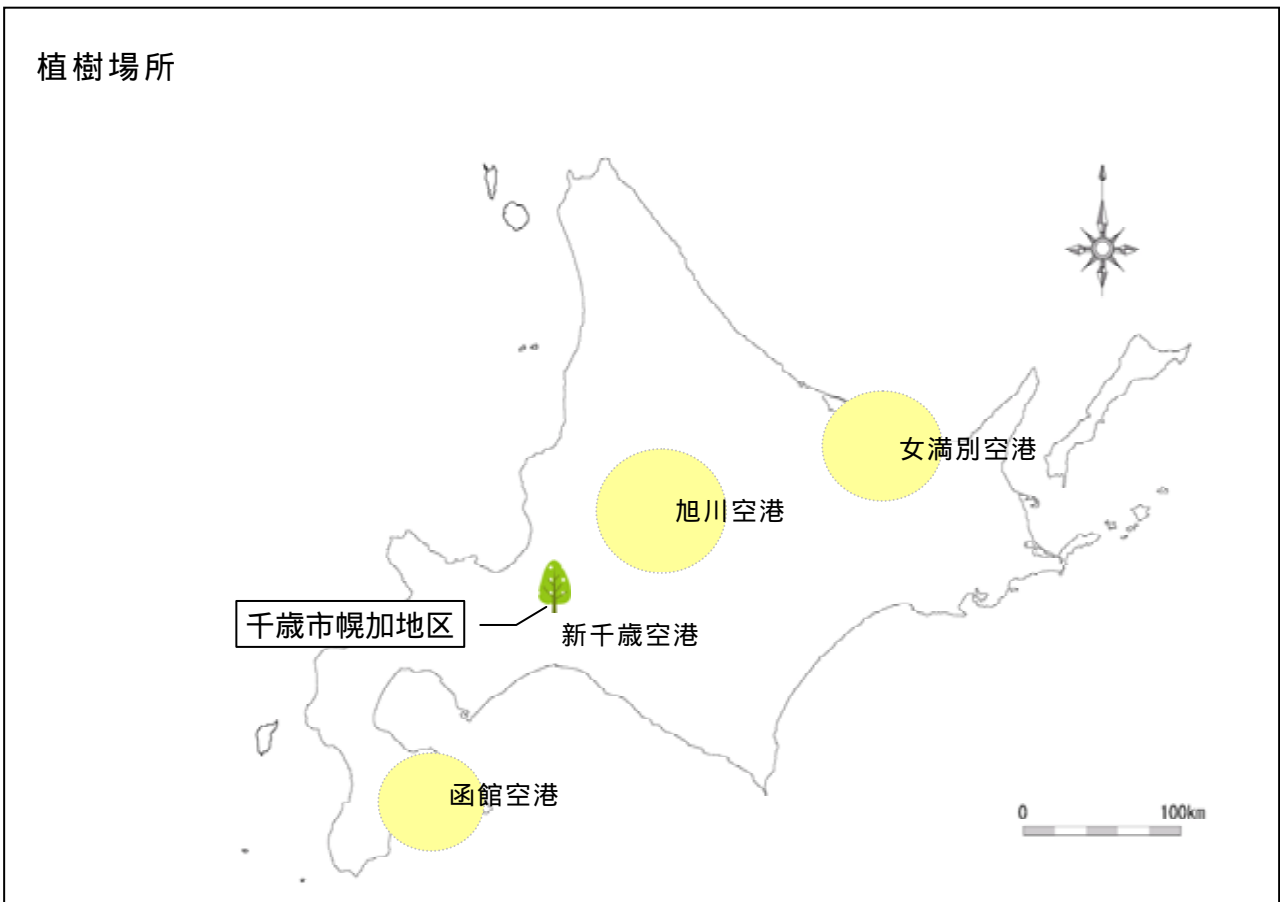
- 植樹をした後の苗木成長過程をエア・ドゥホームページおよび機内誌(ラポラ)で紹介する。
- 千歳市幌加地区については、2008 年 6 月中旬～下旬を目途に、北海道代表者立会いのもと、千歳市森林組合と弊社の代表による調印式を実施する。
- エア・ドゥのエコ活動への取り組み(別添参考資料参照)

ほっかいどう企業の森林づくり:

企業が社会貢献を目的に行う森林整備等の支援制度で、2007 年度に開始された。

北海道が、全道の民有林(道市町村有林・私有林)から企業による整備を希望する森林を募集し、当該情報を企業に紹介。企業は利用権、命名権等を得て、環境教育等への利用が可能となる。

植樹場所



本件に関するお問い合わせ: 総務部 広報担当 TEL: 011-252-5533

「エア・ドゥのエコ活動への取り組み」

社会貢献活動	<p>知床キムンカムイ・プロジェクトの支援【05年度～07年度】 知床財団が取り組む「人とクマが共に安心して暮らせる知床を目指す活動」(ヒグマにGPSを装着し知床半島における行動・出生・死亡に関する長期モニタリングするなど)を支援するために寄付。 エア・ドゥ ハンドタオルの機内での売上金の一部を同プロジェクトに寄付。</p> <p>新千歳 ECO AIRPORT への協賛【08/6～】 パネル展示</p>
機内でのエコグッズ販売	<p>タンブラーの販売【08/5～】 資源(紙コップなど)を節約しゴミを減らす。</p> <p>エコバックの販売【08/6～】 レジ袋を節約する。</p>
事業活動における環境対策	<p>燃料消費量を削減 効率的な飛行ルートの本格導入(広域航法(1))【07/12～】 機用品(機内販売品、機内誌等)搭載量削減による機体重量軽減【08/2～】 地上電源装置(GPU(2))の有効活用【08/3～】</p> <p>タイムテーブルの刷新【08/4～】 紙の節約(ページ数削減)</p>
社員参加型活動	<p>クールビズの導入【05/6～】</p> <p>Let'sエコ・ドゥ活動【07/4～】 電気使用料の削減(12:00～13:00の消灯、ノ残業 DAY の設定) OA紙の削減(両面印刷や裏紙使用など)</p>

- 1 広域航法(RNAV)
 地上無線施設の位置に左右されることなく任意の飛行ルート設定(直線的な運航)が可能となる運航方式。
- 2 地上電源装置(GPU)
 空港施設内から航空機に電力・空調を航空機に供給する設備のこと。二酸化炭素の排出量も補助動力装置(3)に比べ格段に少なくなる。
- 3 補助動力装置(APU)
 航空機の各部に圧縮空気や油圧、電力を供給するために、メインエンジンとは別に航空機に搭載された小型のエンジン。

以上